

平成30年度全国学力・学習状況調査 結果の概要

女川町立女川中学校

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準を維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 改善の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査実施月日 平成30年4月17日(火)

3 対象学年 女川中学校第3学年生徒47名 当日実施生徒 44名 後日実施生徒 3名

4 調査事項及び内容

- (1) 教科に関する調査：国語，数学，理科
- (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

5 本校と県・全国との比較

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
宮城県	下回っている。▼	下回っている。▼	下回っている。▼	下回っている。▼	下回っている。▼
全国	下回っている。▼	下回っている。▼	下回っている。▼	下回っている。▼	下回っている。▼

○すべての調査で下回った。

6 学力調査結果から

(1) 国語の成果・課題と指導改善のポイント

①調査結果から明らかになった成果・課題等

(成果)

- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、全国・県に比べて低いものの、「漢字の読み」や、「語句の意味の理解」に関する問題で、一部のものは全国・県より正答率が高い。

(課題)

- ・「話すこと・聞くこと」領域では、話合いの話題を捉えたり、話題に応じた発言を書いたりする問題について、全国・県より著しく低い。
- ・「書くこと」領域では、伝えたい事柄をまとめて記述する問題について、全国・県より著しく低い。
- ・「読むこと」領域では、文章の情報を整理して、内容を捉えているか確認する問題について、全国・県より著しく低い。

②指導改善のポイント

○「話す力・聞く力を高める学習指導」

本校では課題に対して自分の意見をまとめ、他者と交流する活動を行ってきた。また、条件に応じてスピーチをしたり、スピーチに対して感想を述べたりと、話す力・聞く力を高める学習指導を行ってきた。全国学力調査で低かった設問は、「バス座席の決め方について」の話合い

に関する問題である。不足している力は、以下の2点である。

- ・話題の要点を捉えてメモを取る力
- ・多様な意見をまとめるための発言をする、司会の力

特に本校生徒は「多様な意見をまとめる発言」について、学習が不足している。本校生徒は、バズセッションのようなにぎやかな話し合いでは積極的に意見を出すものの、ディスカッションや協議形式の話し合いでは、考えを胸にしまっておく生徒が多い。そのため、活発な議論ができず、司会役が形式的に進行をするだけの存在になってしまいがちである。今後は、単元のまとめ等で、司会を立てて話し合う活動を取り入れて、活発に意見交流をさせるとともに、意見のまとめ方を身に付けさせたい。

○「書く力を高める学習指導」

本校の3学年は、1学期の授業で200字の条件作文を4回実施した。200字で自分の考えをまとめる際、1段落で自分の意見を書き、2段落で、体験を踏まえて具体的に根拠を書くよう意識させてきた。時間がかかる生徒はいるものの、ほとんどの生徒は160字以上文を書くことができていた。しかし、根拠に具体性がなかったり、意見の内容が稚拙だったり、今後も指導を重ねていく必要がある。

全国学力調査では、国語Aで、「2図書だよりを作成する」という問題があった。

- ・図書館のパソコンを利用するには、受付で申し込むこと。
- ・図書館のパソコンは数に限りがあること。

以上2点を「一文」「30字」で書く、という条件の問題であった。この問題の本校の生徒率は47.7%で、宮城・全国の生徒率64%と比較すると、16.3%も下回っていた。この原因としては以下の2点が挙げられる。

- ・「一文」という条件を意識できていなかった。
- ・「伝えたい事実が何なのか」を理解できていなかった。

以上のことから、「条件を意識して書く」学習活動を続けていく必要があると感じた。

○「読む力を高める学習指導」

段落相互の関係について理解したり、段落が文章の中で果たす役割を考えたりする学習活動を行う。

(2) 数学の成果・課題と指導改善のポイント

①調査結果から明らかになった成果・課題等

(成果)

- ・「数と式」の領域では、全体的に全国・県よりも正答率は低いが、簡単な計算問題は全国・県に比べて同等、もしくは高い。
- ・「図形」の領域では、対頂角が等しいことの証明が、全国・県の正答率と同等であった。
- ・「関数」の領域では、歩いた道のりと残りの道のりの関係についての設問は全国・県よりも高い。

(課題)

- ・「数と式」については、目的に応じて等式を変形することや数量の関係を文字式に表す設問について、全国・県より著しく低い。
- ・「図形」の領域では、小学校で学習した内容以外の設問はすべて全国・県の正答率よりも低い。

特に平面と直線の関係や四角柱と四角錐の体積の関係，2つの三角形が合同であるための条件の設問が著しく低い。

- ・「関数」については，反比例のグラフから表を選ぶ設問や x の増加量から y の増加量を求める設問が著しく低い。
- ・「資料の活用」については，すべての設問で全国・県の正答率より低い。

②指導改善のポイント

- ・「数と式」については，実態に合わせた例題を作成し，練習問題に取り組みやすくする。また，事柄や数量の関係を文字式で表したり，その文字式の意味を読み取ったりする問題を数多く行わせる。
- ・「図形」については，基礎・基本を理解させるために，模型や電子黒板を利用して生徒がイメージしやすいよう工夫する。
- ・「関数」については，関数の意味を理解させ，表・式・グラフを関係づけて指導する。
- ・「資料の活用」については，基礎・基本の定着のために，練習問題を多く取り組ませる。

(3) 理科の成果・課題と指導改善のポイント

①調査結果から明らかになった成果と課題等

(成果)

- ・学習指導要領の分野で見ると，4つの領域のすべてにおいて全国並びに宮城県の正答率よりも低い，以下の項目については全国並びに宮城県の正答率と同等かもしくは上回っていた。

<物理的領域> 光のエネルギーと電力に関すること

<化学的領域> 質量パーセント濃度に関する計算及び濃度の比較，ガスバーナーの利用に関すること

<地学的領域> 風向の観測並びに記録に関する知識，太平洋高気圧に関する知識

- ・『主として「知識」に関する問題』では，化学的領域の正答率は全国並びに宮城県と同等であった。

(課題)

- ・どの領域に関しても，評価の観点の「科学的な思考・表現」の項目の正答率が低い。
- ・『主として「活用」に関する問題』では，4領域ともに正答率が低い。
- ・『主として「知識」に関する問題』では，物理的領域及び生物的領域の正答率が低い。
- ・短答式及び記述式の問題形式についての正答率が著しく低い。

②指導改善のポイント

- ・まずは，各領域における一層の知識・理解の定着が必要である。知識・理解の定着なくして「科学的な思考・表現」の向上は望めない。また，選択式の問題にはある程度回答できるものの，短答式及び記述式の問題に無回答が多いことから，知識・理解の定着が不足していることが推測され，以下に定着を目指す取組をしていかなければならないかが分かる。
- ・そのために，小単元及び単元ごと的小テストの実施や定期考査で追試を行うなど，暗記する機会を増やし，暗記した知識・理解を確認する場を設定していきたい。
- ・記述式問題に対応するためには，「科学的な思考・表現」を高める必要がある。そのためには「実験の結果のまとめ，考察する力」，「発問に対する，自分の考えを表現する力」などを育成しなければならない。

- 「実験の結果のまとめ、考察する力」を高めるためには、まず、「実験、観察の技能」を確実に取得させ、ある程度の精度で実験結果が出せる状態にしなければならない。ある程度思考力が備わっている生徒は、イレギュラーな実験結果が出たとしても、どうしてそのような結果になったのかまで推測できるようになるが、多くの生徒はそこまで到達していない。そのため、実験結果が不正確であると本来実験結果から推測される事項であっても、推測不可能になりその状態が数回続くと、いずれ考察することもなくなってしまふ。そのため、ある程度しっかりした実験結果が出せる技能の習得が必要となってくる。
- 「実験結果から考察する」ためには、実験の目的の把握が大切になる。この実験が何のための実験なのか、しっかり実験前に捉えさせる必要がある。そのためには、毎時間の課題設定が重要となり、課題設定の文言の吟味を大切にしていきたい。
- 「発問に対する、自分の考えを表現する力」を高めるためには、上記事項と同様に、発問の言葉の吟味が必要であるとともに、生徒の興味・関心をより高められるような題材の収集が必要となる。そのためには、常に科学に関する情報を収集するよう教師側も努力を行っていく必要がある。